講義コード		222042B						
講義科目名称		放射線生物学Ⅰ【診療】						
英文科目名称		radiobiology I						
講義期間		前期						
		適用一診療放射線学科(2023)						
		1						
		1						
科目必選区分		必修						
担当教員		白戸 克吉						
		前期 木曜日 3時限 211・212教室						
<u>唯口 内閣</u> 関連するディプロマポリシー		DP2 DP3 DP4						
		-						
授業概要		放射線生物学は放射線が人体に及ぼす影響を様々なスケールで研究する学問である。 放射線がDNAや細胞に与える影響が、個体の状態へ繋がっていることを理解する。						
学修の到達目標		放射線がDNAや細胞に与える影響について理解できる。確率的影響と確定的影響の特徴や具体例について理解できる。						
予習・復習の内容および それに必要な時間		予習:予告した内容について、教科書等を用いて予習を行う(30~45分)。 復習:配付プリントを中心に見直して復習を行う(45~60分)。						
成績	成績評価の方法・基準		筆記試験の成績により評価する。					
	・レポート等に対する ィードバックの方法	筆記試験の結果について、CoursePower上で総評を行う。						
	教科書							
No	書籍名		著者名	出版社	出版	年	ISBN	
1.	放射線治療技術学(概論、II) 放射線 治療機器工学 標準測定法12 放射線生物学 II-授業の資料と解説- (第3版)		佐藤洋	日本医療科学大学	2020	0年		
2.								
3.								
参考図書								
No	書籍名		著者名	出版社	出版	年	ISBN	
1.	放射線生物学 (六	訂版)	杉浦紳之・鈴木崇彦・山西弘城	通商産業研究社	202	1年	978-4-86045-141-7	
2.	改訂第2版 診療放射線技師スリム・ベーシ	ック 放射線生物学	福士政広	メジカルビュー社	202	1年	978-4-7583-2025-2	
3.	人体のメカニズムから学ぶ放射線生	人体のメカニズムから学ぶ放射線生物学 (第1版)		メジカルビュー社	201	7年	978-4-7583-1725-2	
教		放射線生物学は生化学、生理学などの基礎的な科目や放射線治療と関係が深い科目です。これらを関連づけて理解するように努めてください。						
実務経験の内容及び経験に関 連する授業内容		実務経験の有無:						
	その他							
参考URL		表示名:						
		URL:						
授業方式		オンライン授業		対面授業		併用		
				0				

回数	テーマ	各回の内容・到達目標
1	放射線生物学概要	放射線が細胞や人体に与える影響について、概要を理解する。
2	放射線の種類	電離やLETによる放射線の分類を理解する。様々な線量単位とその用 法について理解する。
3	直接作用と間接作用	放射線の直接作用と間接作用、フリーラジカルの生成や再結合につ いて理解する。
4	間接作用の修飾要因	間接作用の修飾要因について、治療と結びつけて理解する。
5	DNA損傷と回復	核酸の構造、DNAの損傷とその修復方法について理解する。
6	細胞死と細胞の回復	細胞周期と放射線感受性の関係について理解する。細胞死と細胞の 回復について理解する。
7	突然変異	様々な遺伝子突然変異と染色体突然変異の様式について理解する。
8	自然放射線被ばく	自然放射線による被ばくについて理解する。内部被ばくと外部被ば くの要因についてそれぞれ理解する。
9	急性放射線症	急性放射線症について理解する。線量によって死因となる臓器が異 なることを理解する。
10	確定的影響と確率的影響	確定的影響と確率的影響について整理し、その違いを理解する。
11	確定的影響	確定的影響について、放射線感受性の高い臓器、組織を中心に深く 理解する。
12	確定的影響2	確定的影響について、放射線感受性の高い臓器、組織を中心に深く 理解する。胎児の確定的影響(時期特異性)について理解する。
13	確率的影響(がん)	確率的影響の中で、特にがん、リスク係数について深く理解する。
14	確率的影響2(遺伝的影響、寿 命短縮)	確率的影響の中で、特に遺伝的影響、寿命短縮について深く理解す る。
15	統括	これまでの内容を統括し、放射線の人体への影響を様々なスケール から考察する。

授業計画